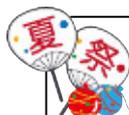


# こ っ ぽ い じ び



暑い日がつづきますね…

平成30年 長月号



## ナーシングだより

8月20日(月)には、夏祭りを開催しました。

職員の子供たちの空手の型の演技の際は、ご利用者から掛け声やアンコールがでるなど、皆様とても喜ばれました。今年も、夏祭りを盛り上げるために、職員・ご利用者みんなで浴衣を着て、盆踊りや射的をして楽しみました。



## 9月1日は防災の日です

当事業所訪問看護では、災害用トリアージを独自に作成しています。トリアージとは、災害・事故現場で緊急度・重症度によって負傷者の治療の順番を決めることですね。当事業所の災害用トリアージは「人工呼吸器・吸引器・在宅酸素等の医療機器を使用している」また「独居の利用者」を対象に作成しています。医療機器を使用している場合に災害時の停電は深刻な問題ですし、独居の方もとても不安なものです。特に医療機器使用の利用者また家族とは、9月と3月の年2回お宅に訪問した際、訪問スタッフと現状と対策の状況を確認しています。また対象者の情報を表にして、いざという時連絡がとりやすいようにしています。何も無いのが一番ですが、備えあれば憂いなしですね。



## 今月の勉強会

いきいきクリニックの武知由佳子先生をお招きし「在宅における呼吸管理」をテーマに勉強会を開催しました。人工呼吸器のイメージが「つらい・我慢」等ネガティブなものになりがちですが、その方の呼吸状態によって「最適」な設定を行なうことで「夜眠れる・楽に呼吸ができる」等、有用性を感じてもらい、先を見据えて今できることをすることが重要であるということを実感することができました。



都筑区医師会訪問看護ステーション  
都筑区医師会ヘルパーステーション  
都筑区医師会24時間在宅ケアステーション  
都筑区医師会居宅支援センター  
都筑区医師会福祉用具センター  
都筑区医師会ナーシングホーム

TEL 045-913-5181  
TEL 045-913-3577  
TEL 045-913-3577  
TEL 045-910-6327  
TEL 045-911-6100  
TEL 045-913-6321

看護・介護・福祉用具・24時間在宅ケア

居宅

FAX 045-911-6700

FAX 045-910-6506

☆☆パソコンから在宅事業部門の活動内容を見ることが出来ます。ぜひご覧下さい☆☆

[http://www.tsuzuki-med.org/wp/center/zaitaku\\_features/](http://www.tsuzuki-med.org/wp/center/zaitaku_features/)

『ヨコハマつづき健康生活ナビ』の『在宅事業部門』からお入り下さい。

**健康まめ知識**

風邪を引きやすい方、どんな予防をしていますか??うがい・手洗い…は当然ですが、食事で免疫力を上げる必要があります!!まずは、ヨーグルトです。ヨーグルトを 170g 摂取すると免疫力がアップするといわれており、飲むタイプのヨーグルトでも効果があります。緑茶も L-テアニンという成分が免疫力を強くしてくれます。体調が悪くなると皮膚にも影響してきますが、皮膚の免疫力を高める最適な食べ物はビタミン A を豊富に含むサツマイモです。腸内環境を整え免疫力をアップさせるには、キノコが適しています。乳製品だけでは食物繊維がない為 腸内の悪玉菌や老廃物を体の外へ出すことが出来ません。キノコにはコレステロール値を下げ、便秘解消にも効果があるので毎日でも摂取したいですね。ヨーグルト・緑茶・サツマイモ・キノコを積極的にとり、風邪予防をしていきましょう♪

**オススメ！福祉用具情報③**

3 回目の福祉用具情報は『ベスポジ-e 耐水基本セット (丸型天井ベース)』です。

工事が不要の突っ張り式の手すりで下部に耐水ベースを標準でセットしてあります。扉の開閉も可能です。天井と床の強度があり、天井と床の間隔が 190cm~270cm あればベランダや玄関ポーチ等雨に濡れるような場所にも対応しています。

さらに軽量・コンパクトになり本体そのものが様々な動作・姿勢を補助するとともに、多様なオプションにより介護者ごとの状況に合わせたセットを組むことが出来るようになるための基本ポールです。一般的な住宅であればほとんどカバーすることができます。介護保険でレンタルできますのでご興味がある方は担当に相談してみてください。

**認知症なび**

厚生労働省の推計では、2025 年には認知症患者数約 700 万人、65 歳以上の 5 人に 1 人といわれています。また、高齢になるにつれ認知症の割合は増加し、85 歳以上では 2 人に 1 人の割合といわれています。決してめずらしくなく、誰もがかかる可能性があり、自分自身の問題として考えていくことが必要だと思います。

「もの忘れ」があり、生活の混乱やその人らしさがなくなっているというサインを見逃さず、まずはかかりつけの医師に早めに相談しましょう。早めに受診することで、硬膜下血腫など治療で治る認知症を発見したり、軽度認知障害の時期から治療を開始することで発症を遅らしたりすることができます。

**わた知って!**

水無月号で金枝さんから紹介されましたヘルパーの長谷川です。紹介文にもありましたが、猫が大好きなんです。でも好きになったのは、ここ 3.4 年の事。それまでは完全に犬派で猫は苦手でした。どうして好きになったのかというと、我が家の玄関に毎日のように子猫が顔を出すようになり、居ない時は名前を呼ぶと(勝手につけた名前ですが)玄関まで来てくれて、猫の方から足元をスリスリ、喉をゴロゴロ。そんな事をされたら可愛くて♪完全に猫派になり今では猫 3 匹の飼い主です！まだ猫の事を話したい所ですが、また次の機会に。。次回は同じ広報担当の濱崎さんです。よろしくお願ひします。 

**編集後記**

今月から認知症についての特集を認知症ケア専門士の看護師を中心に連載していきます。今後も様々な企画を考えていけたらと思っています。

**【目安箱】**

ご意見、ご要望などは、いつでもご遠慮なく、ご連絡いただけますようお願い申し上げます。

913-5181 統括管理者 吉井